

平成23年度

応募件数 37件 助成件数 9件

団体名	所在地	活動内容の概要
特定非営利活動法人 利尻ふる里・島づくりセンター 理事代表 吉安 高嶺	利尻町	<b>利尻資源蘇生の町づくり・新たな農業ビジネス創出事業</b> 当NP0法人では、利尻島内にある有形、無形の資源の蘇生に取組んでいます。現在、利尻島には専業農家が1件もなく、島民は高く品質の悪い野菜を購入している現状です。一方、島内では就業場所がないことから人口流出に歯止めがかからず、過去10年間で25%もの人口減となっており、新たな就業機会の創出が急務となっていることから、次の活動を実施します。 ①高齢者の知恵と労働力の活用 ②農業アドバイザーの招聘 ③島内外でのマーケティング調査 ④利尻の水産物と野菜を融合した料理の試作品開発 ⑤移住希望者への意向調査
南富良野エゾカツカレー推進協議会 会長 川村 勝彦	南富良野町	<b>エゾシカ普及推進プロジェクト</b> 北海道でのエゾシカによる農林業被害は約64億円ともいわれており、当町においても例外ではなく、平成20年にエゾシカ処理施設が開設したことを機に、町内10店舗で新・ご当地グルメ「南富良野エゾカツカレー」を誕生させた。その後、エゾシカを町内はもとより町外に対して普及活動を行ってきたが、新たな観点から本事業では食育を通じた学校関係との連携事業と新たなターゲットの開拓を図る事業を行い、広く町内外に“食べるエゾシカ”の普及活動を展開する。
釧路湿原・阿寒・摩周シーニック バイウエイルート運営代表者会議 会長 桐木 茂雄	釧路市	<b>エゾシカ肉を活用した新しい地域特産品の開発販売にむけた検討</b> 釧路地域では、エゾシカの生息数の増加から、原生林への被害や農業への被害等が、地域社会の課題となっている。その課題解決のために、エゾシカ肉の積極的な消費を進めているが、コストパフォーマンスが成熟しておらず末端価格が高いことや、独特の臭みからエゾシカ肉に抵抗のある消費者もあり、活発な消費に繋がっていない。 本事業では、エゾシカ肉を活用した“新しい地域特産品（2次～3次加工品）”の開発販売にむけた検討を行い、「エゾシカによる地域社会の問題解決」と「エゾシカの消費拡大」を進め、新たなビジネスモデルの構築に繋げる。
江差町歴まち商店街協同組合 理事長 室谷 元男	江差町	<b>「北前ひな語り～歴まちのおひなさん」</b> 景観に色彩が少なく魅力不足の2～3月という観光閑散期に、歴まちの各拠点施設や個店などの玄関先に雛人形を展示することで、彩り鮮やかな新たな風景を演出し、魅力あるいにしえ街道の観光資源づくりを行うと共に、「百人の語り部事業」の一環として住民の観光交流のきっかけをつくり、おもてなしと対話による印象深い体験型観光の推進を図る。また、江差のひな人形のルーツを辿り、全国の北前交流・半島交流地域の雛人形を集めて広く公開し、地域にとどまらない全国のひな人形の魅力と江差特有の雛祭りを紹介する。
十勝シーニックバイウエイ南十勝 夢街道 代表 加藤 修治	幕別町	<b>十勝開拓の歴史「晩成社」を活用した歴史ツーリズムによる地域活性化</b> 現在の十勝の産業に大きな功績を残し、十勝開拓の祖といわれる依田勉三（晩成社）ゆかりの地が晩成社史跡（大樹町）をはじめ十勝管内に点在しています。これらを中心とする十勝開拓の歴史を活用した「歴史ツーリズム」を検討することを目的とし、歴史資源再発見学習会を実施し、観光用の資料作成を行ないます。また、十勝シーニックバイウエイの3ルートで連携して活動を行なうとともに、依田勉三の故郷静岡県隣の日本風景街道「なごみの伊豆 ながみの道」との連携を図り、今後の観光拡大のきっかけづくりを目指します。
苫前町ハマボウフウ研究会 会長 鎌田 孝	苫前町	<b>苫前町の地域資源「ハマボウフウ」の資源復活作戦と海浜植物の活用によるコミュニティビジネス創出活動</b> ～シルバー人材の活躍による、地域活性化プロジェクト～ 苫前町では貴重な地域資源である「ハマボウフウ」の消滅が危惧されており、地域の貴重な資源を守るため、「苫前町ハマボウフウ研究会」を立ち上げて、地域住民自ら資源の復活活動に取り組んでいる。 さらに、その資源を活用することで、シルバー人材の活躍による地域コミュニティビジネスを創出し、貴重な資源を維持しながら活力のある地域社会の創造を目指す。
特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団 理事長 吉岡 宏高	岩見沢市	<b>「幌内鉄道の鉄橋再生を目指す、人・歴史・まちづくりの架け橋」プロジェクト</b> 米国式鉄橋として我が国最古の幌内鉄道のトラス橋部材が平成11年に岩見沢に里帰りしたが、岩見沢駅の焼失や再建等により、保存活動が下火となっていた。しかし、その間に岩見沢駅再建（レンガプロジェクト）や炭鉱関連の保存活用など、地域特性を活かした市民参加型のまちづくりや地域振興の実践が浸透した。 そのような情勢変化を踏まえ、地域の特性と市民の力を活かして、貴重な鉄橋の再生を目指したイベント等を実施する。
特定非営利活動法人 旧狩勝線を楽しむ会 理事長 竹田 英一	新得町	<b>旧狩勝線を利用したフットバス及びトレイルランの開催</b> 当会では、近代化遺産旧狩勝線を維持管理し利活用を進めることで、まちづくりの推進及び文化の振興に寄与すべく、「旧狩勝線の落合から新内までの峠越えを歩く会」並びに「狩勝トレイルラン（20Km、10Km、5Km）」を開催します。開催にあたりコース整備やトレイルランのためのタイム測・記録証発行ソフトの開発を行います。今回のコース整備によって27Km全線が歩行可能となり、来以降も継続的な開催が容易になります。 整備された案内板やコースは、フットバス利用者のアクセスとして利用されるなど、イベント以外でも活用されます。
特定非営利活動法人 とかち馬文化を支える会 理事長 柏村 文郎	帯広市	<b>「馬車にゆられて十勝文化体験」事業</b> 十勝地方の中心地・帯広は市街地のすぐそばに、動物園、大型公園、百年記念館、そして、600頭の馬が住む帯広競馬場が隣接する町であり、帯広競馬場で飼養されている馬達は、世界で唯一の「ばんえい競馬」で活躍する大型馬である。このような他地域にはない特徴を活かし、当会では「馬を使った出前授業」など教育福祉関係の事業を展開してきたが、今回は、更に地域活性を目的とし、上記、文化施設を巡る馬車の運行を企画。 先人と共に原野を切り拓き、豊かな土壌を育んだ農耕馬。彼らの末裔のひく馬車で文化施設を巡る体験で、馬耕新時代を知らない世代の人々や、北海道外の観光客にも、北海道の文化を体感してもらおう。